



につせき ぬくもり通信

2013年4月1日 Vol.32
<http://www.matsuyama.jrc.or.jp/>

《基本理念》

人道、博愛、奉仕の赤十字精神に基づき、医療を通じて、地域社会に貢献します。

《基本方針》

- 1 人間としての尊厳を守り、良質で温もりのある医療を提供します。
- 2 安全と安心の医療を提供し、信頼される病院を目指します。
- 3 地域の医療機関と連携を密にし、質の高い急性期医療・専門医療を実践します。
- 4 災害救護活動ならびに医療社会奉仕に努め、赤十字活動を推進します。
- 5 自己研鑽に努め、次代を担う医療人を育成します。
- 6 一人ひとりが生き生きとし、働きがいのある病院を目指します。



写真／前列左から3番目 田口浩之

リハビリテーション科

寝たきりを予防して自宅に帰る

リハビリテーション科 診療部長 田口 浩之

1 「リハビリテーション」ってなに？

膝や腰が痛くなったとき、電気を当てたり引っぱりして治療を行うのがリハビリテーションと思っていませんか？
当院のリハビリテーション科では、人生の質（クオリティーオブライフ、QOL）に注目し、日常生活を豊かなものにするための治療を行っています。

2 「リハビリテーションの無い医療はありえない」時代

急性期病院でも患者さんが高齢化しており、入院患者の疾患は老化に伴うものが大半を占めています。病気の治療にとって安静が有益でも、安静により合併症が発生し、患者さんのQOLが著しく低下してしまうことは珍しくありません。そのためリハビリテーション治療は急性期疾患の治療と並行して行うことが必要です。リハビリテーションのない医療はありえないのです。

3 手術された方に対するリハビリテーション

当院では、手術された患者さんに対して手術前からリハビリテーションを行っています。手術前日に安静の弊害を患者さんに説明します。手術翌日には療法士が病棟を訪れ離床訓練を開始します。この周術期リハビリテーションの導入により手術後の廃用性症候群の発生を大幅に減らすことができました。歩いて入院された患者さんが寝たきりになって退院することが少なくなりました。

4 内科系患者さんのリハビリテーション

肺炎などの内科系疾患の患者さんも、入院初期から疾病の治療と並行してリハビリテーション治療を行うことで、寝たきり患者さんの発生を減らすことができています。

5 急性期病院の中でのリハビリテーション病棟

一般病棟では病気に注目して病気の治療を行っているのに対し、リハビリテーション病棟では患者さんのQOLに注目して日常生活動作（ADL）の獲得を目標にしています。また一般病棟ではドクターが診療計画を作成し、指示に従ってナースが治療を行うのに対し、リハビリテーション病棟ではドクター、ナース、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護補助者、ソーシャルワーカーなどがそれぞれの立場から患者さんにアプローチし、頻回にカンファレンスを開いて情報を共有、チーム一丸となって治療を行います。目指す目標、治療の方法が異なりますのでリハビリテーション病棟は一般病棟と別の病棟として独立しています。

6 まだまだ遅れている急性期病院のリハビリテーション

国も急性期病院のリハビリテーションが遅れていることを重要視しており、様々な支援策を講じています。当院のリハビリテーション科では、「入院された患者さんの人生の質を高める。」をモットーにこれからも診療を続けてまいります。

『がんに関する市民公開講座』を開催

3月9日(土)、いよてつ高島屋ロースホールにて当院主催の『がんに関する市民公開講座』が開催されました。当日は開場前から並んでいた方も多く、計328人の来場者となりました。

日々の診療や業務で手一杯の講師の方々も、今回は市民の皆さまに向けた公開講座ということで、いつもに増して熱心に準備に取り組まれました。

「ふえる癌！早期発見と治療法～がんについて知っておくべき3つのこと～」をテーマに、6つのがん(5大がん+前立腺がん)について、当院の医師・看護師がお話ししました。休憩時間には、会場後方に設けられた展示スペースで腹腔鏡手術のシュミレーターなど最新医療機器の説明のほか、乳房触診モデルを使った乳がんの自己検診指導も行い、来場者の方々も熱心に聞き入っていました。

参加者からは、「がんは怖い病気だと思っていたけれど、早期発見すれば治療できると聞いて安心した」「今後は定期的に検診を受けたいと思う」「家に帰ってから家族にも今日の資料を見せたい」など、嬉しいご感想を沢山いただきました。

がん診療推進室では、今後も地域のがん診療のために様々な情報を発信し続けていきたいと考えております。



潜在看護師研修会を開催しました

平成25年2月5日～6日の2日間、看護現場への復帰支援として、「潜在看護師研修会」を開催しました。今年は愛媛県看護協会「潜在看護師実技研修」と合同で開催し、12名が参加されました。

研修会では、最近の医療・看護の動向、採血や救急法などの講義・演習を体験し、「今後の復帰を考えるにあたり、自信になった」、「もっと研修・勉強したいと思った」との感想が聞かれました。

研修を受けたことで、再就職について、少しでも前向きに考えていただけたら嬉しく思います。

第10回 地域医療連携フォーラム開催(予定)

今年も地域医療連携フォーラムを下記のとおり開催いたします。

今年のテーマは「認知症(仮題)」となっており、脳神経内科の第一人者であり、東京女子医科大学名誉教授の岩田誠先生を迎えて、特別講演を予定しております。

当院といたしましても、みなさまにとって有意義なフォーラムとしたいと思っておりますので、ぜひともご参加いただけますようお願い申し上げます。

- 日 時：平成25年7月14日(日)13時～15時30分
- 場 所：ひめぎんホール(サブホール)
- テー マ：認知症(仮題)
- 特別講演：東京女子医科大学名誉教授・
メディカルクリニック柿の木坂院長
岩田 誠 先生
- 参加対象：地域住民のみならず ※参加無料



第9回フォーラム(平成24年度)

患者の皆様の権利

私たちは、患者の皆様の権利を尊重した医療の提供に努めます。

1. 人権を尊重される権利

一人の人間として、その人格、価値観などを尊重される権利があります。

2. プライバシーを保護される権利

院内でのプライバシーが守られる権利、診療の過程で得られた個人情報の秘密が守られる権利があります。

3. 公平で最善の医療を受ける権利

良質な医療を公平に受ける権利があります。

4. 医療に関して知る権利

診療に関して、理解しやすい言葉や方法で納得できるまで十分な説明と情報を受ける権利があります。また診療に関する情報について聞かない権利もあります。ご自分の診療記録(カルテ)の開示を求める権利があります。

5. 医療行為について選択し決定する権利

十分な説明と情報を受けたうえで、治療方法などを自らの意志で選択、または拒否する権利があります。この病院以外での診療を希望する権利、他施設の医師の意見を聞く権利があります。(セカンドオピニオン)

ドナルド・マクドナルドが慰問

2月21日(木)マクドナルド店のマスコット「ドナルド・マクドナルド」が、通院や入院している子ども達を励まそうと慰問に来られました。

午前中は、待ち合いロビーで風船を使ったパフォーマンスやダンスを披露し、午後からは、小児病棟の子ども達へ元気とマクドナルドグッズのお土産をプレゼントされました。



当院携帯サイトをご覧ください

右のQRコード(二次元バーコード)を取り込むことにより、当院携帯サイトにアクセスできます。

- アクセス ● 外来診療のご案内 ● 救急のご案内
- お見舞いのご案内 ● 職員募集情報



松山赤十字病院公式 Facebook ページを公開中!

ぜひ「いいね!」をよろしくお願いします。

松山赤十字病院 フェイスブック 検索

